３．回答結果と分析

（1）まとめと分析

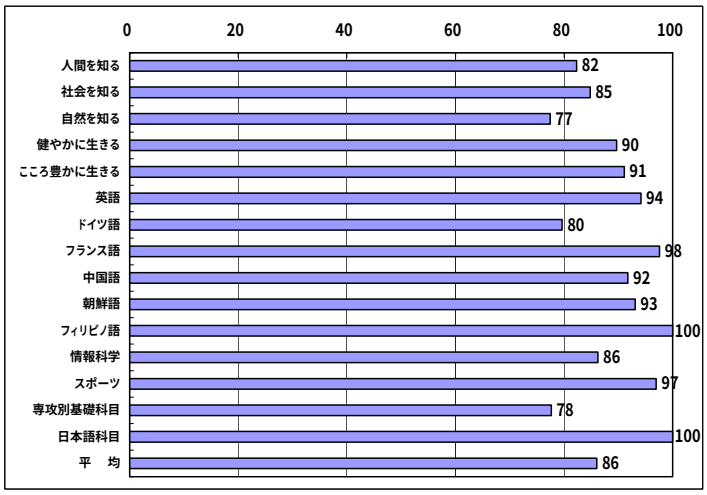
（2）以下に示される平成１７年度後学期の集計結果を，設問ごと４段階評価（授業のレベルのみ５段階評価）において，肯定的評価を下した学生の割合を示し，科目別の傾向を分析する。
なお、「英語」については、平成１７年度より現在のアンケート様式を採用したため、平成１６年度の集計結果は無い。

１）「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「目的・目標の理解」であるが、平均すると86%の学生が肯定的評価を行っており、概ね学生は授業の目的・目標を理解できていると判断できる。授業の目的が明確な「スポーツ」「英語」や未習外国語の多くが90%以上の肯定的評価を得ている。しかし「専攻別基礎科目」「自然を知る」「ドイツ語」は低い数字となっている。目的・目標を理解できないまま、学習を継続することは学習効果が低くなるので、目的・目標を明示する取組が求められる。

表1　設問①1-1目的･目標の理解
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

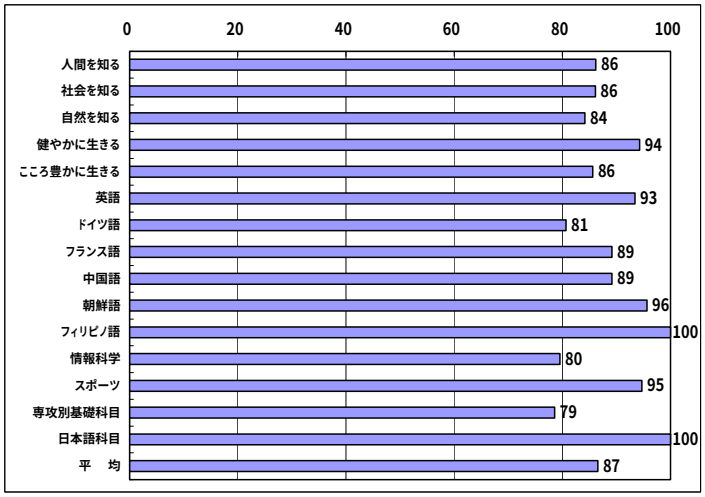
	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	73	73	76	82
社会を知る	79	85	81	85
自然を知る	77	83	78	77
健やかに生きる	83	87	86	90
こころ豊かに生きる	93	83	89	91
英語	ー	ー	93	94
ドイツ語	84	84	79	80
フランス語	89	91	86	98
中国語	90	90	91	92
朝鮮語	91	87	94	93
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	82	92	85	86
スポーツ	95	96	96	97
専攻別基礎科目	73	79	76	78
日本語科目	100	100	100	100
平均	80	85	84	86



次に「進度・時間配分」の適切さであるが、平均で87%の学生から肯定的評価を得た。個々の学生の習熟度に格差が出やすい「専攻別基礎科目」「情報科学」、ならびに「ドイツ語」は、80%前後に留まっており、習熟度クラスの設置など進度や時間配分に改善が必要となる。

表2　設問②1-2進度･時間配分
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

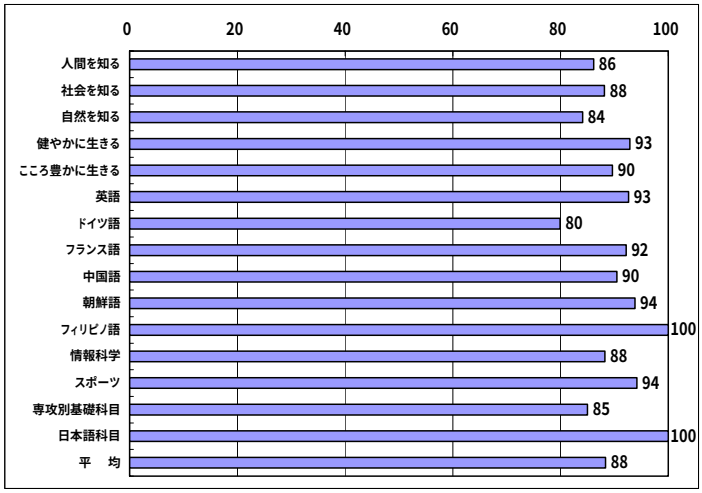
	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	82	82	88	86
社会を知る	83	87	85	86
自然を知る	80	89	87	84
健やかに生きる	86	83	88	94
こころ豊かに生きる	93	82	93	86
英語	ー	ー	93	93
ドイツ語	83	85	82	81
フランス語	82	86	79	89
中国語	84	90	86	89
朝鮮語	95	90	91	96
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	76	86	79	80
スポーツ	92	94	91	95
専攻別基礎科目	75	81	78	79
日本語科目	98	100	97	100
平均	82	86	86	87



「シラバスどおりの授業」については、全科目平均で88%、科目別でも80%を超えて科目間でのばらつきも少ない、肯定的な評価を得た。学生は、授業の進め方をシラバスから読み取り、その通り実践されていることが裏付けられたと判断できる。しかしながら「ドイツ語」は、担当教員間での検討が必要である。

表3　設問③1-3　シラバスどおりの授業
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

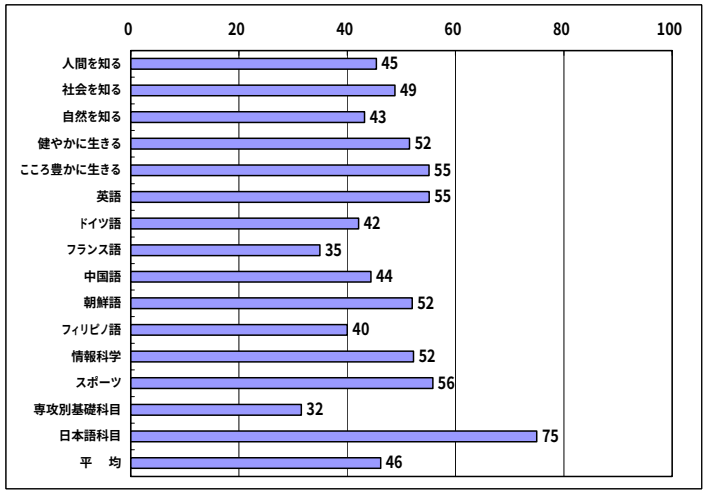
	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	85	84	88	86
社会を知る	85	89	87	88
自然を知る	83	87	82	84
健やかに生きる	85	84	91	93
こころ豊かに生きる	89	80	91	90
英語	ー	ー	90	93
ドイツ語	84	85	80	80
フランス語	85	91	86	92
中国語	86	89	88	90
朝鮮語	92	91	95	94
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	84	92	89	88
スポーツ	92	93	91	94
専攻別基礎科目	82	85	83	85
日本語科目	98	97	100	100
平均	85	87	87	88



「レベル」については、選択肢が5択（他は4択）であり、3番目の選択肢『ちょうどよい』の値を示している。全科目平均で46%しか肯定的な回答を得られなかった。半数以上の学生がレベルの適切さを感じていないということになる。前期に引き続き、数値の低い「人間を知る」「自然を知る」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「フィリピノ語」「専攻別基礎科目」については、その意味を解釈するより深いデータ収集を行い、レベルの再設定もしくは習熟度別クラス編成などを検討すべきである。とりわけ「フランス語」「専攻別基礎科目」は評価が低いので至急検討が必要である。授業内容のレベルの評価が落ち込む要因は、学生の学習背景の多様化、大学における授業スタイルの未習熟、わかりやすさの欠如など様々な要因が複合的に絡むことが多い。そのため、授業内容のレベルは学生と教員のコミュニケーションにより臨機応変に対応することが求められる。

表4　設問④1-4　レベル
（全回答数に対するC評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	41	47	40	45
社会を知る	49	55	46	49
自然を知る	47	44	43	43
健やかに生きる	51	63	48	52
こころ豊かに生きる	63	58	59	55
英語	ー	ー	51	55
ドイツ語	40	42	37	42
フランス語	47	46	31	35
中国語	49	47	45	44
朝鮮語	49	48	55	52
フィリピノ語	0	0	20	40
情報科学	42	44	41	52
スポーツ	56	57	54	56
専攻別基礎科目	35	35	30	32
日本語科目	60	58	72	75
平均	45	47	43	46



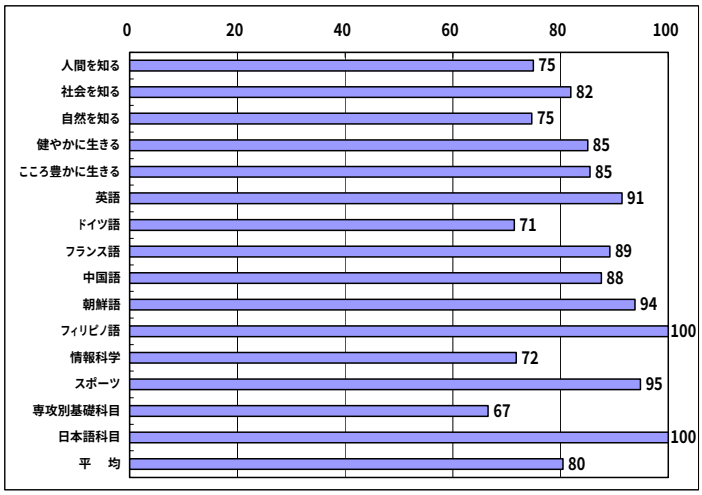
２）「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では80%の肯定的評価を得るものの、科目毎のばらつきが大きい。前期に引き続き「ドイツ語」「情報科学」「専攻別基礎科目」において数値が低くなっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく２つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、授業における教授方法（テクニック等）に起因する場合が考えられる。「情報科学」は難易度についても、低い評価を受けており、教授方法とあわせて見直しをする必要がある。

表5　設問⑤2-1　わかりやすさ

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	67	71	72	75
社会を知る	74	80	80	82
自然を知る	71	78	76	75
健やかに生きる	72	81	80	85
こころ豊かに生きる	92	81	88	85
英語	ー	ー	89	91
ドイツ語	66	78	67	71
フランス語	76	82	76	89
中国語	83	87	86	88
朝鮮語	91	86	92	94
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	66	77	66	72
スポーツ	91	93	92	95
専攻別基礎科目	62	69	65	67
日本語科目	100	100	100	100
平均	72	79	78	80

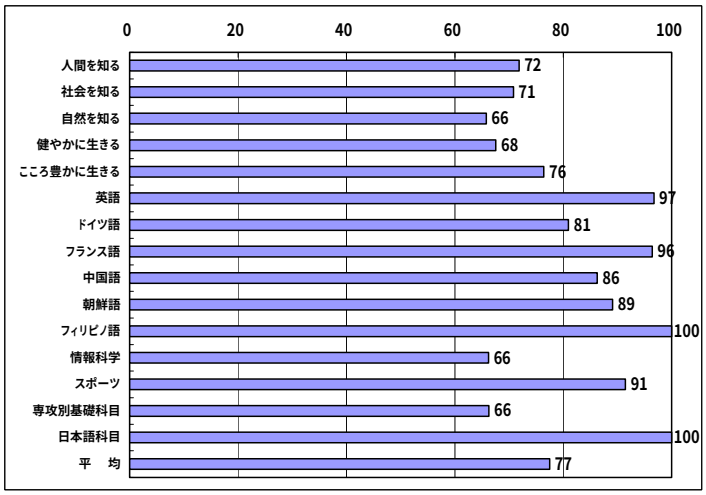


「コミュニケーション」については、全科目平均の肯定的評価が77%であり、継続して数値が向上している。ＦＤでも学生参加型の授業を推進しておりその成果が出ているといえる。「情報科学」「専攻別基礎科目」「自然を知る」「健やかに生きる」が若干低くなっている。これらの科目は、従来知識提供型の授業スタイルが中心的であった内容であるが、そういった内容であっても、学生のコミュニケーション能力の向上が社会的要請として求められていることから、授業における教員と学生両者のコミュニケーションを挿入することは可能であろう。ＦＤ等でその手法を学習する必要がある。

表6　設問⑥2-2　コミュニケーション

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	56	59	61	72
社会を知る	59	72	68	71
自然を知る	53	63	64	66
健やかに生きる	65	65	51	68
こころ豊かに生きる	82	70	76	76
英語	ー	ー	96	97
ドイツ語	76	82	78	81
フランス語	80	92	78	96
中国語	81	85	83	86
朝鮮語	94	80	91	89
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	70	76	69	66
スポーツ	83	89	87	91
専攻別基礎科目	66	67	69	66
日本語科目	100	100	100	100
平均	66	72	75	77

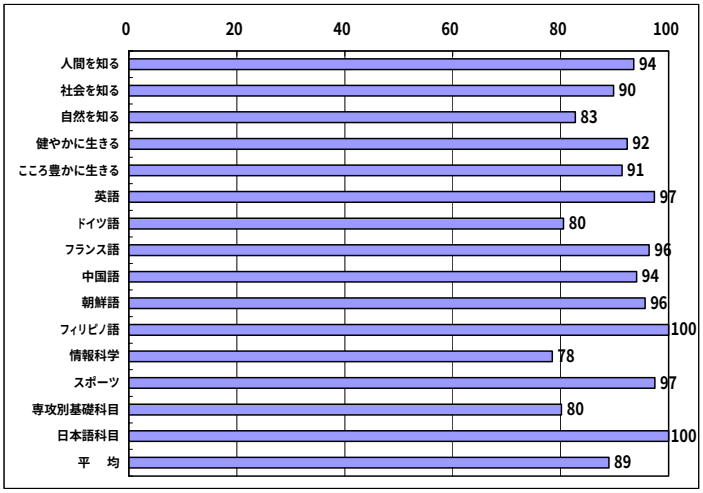


「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が89%であり、向上してきている。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、この評価がさらに伸びるよう期待したい。「情報科学」、「専攻別基礎科目」はここ数年低調であり、部会での検討が必要であろう。

表7　設問⑦2-3　教員の意欲･熱意

(全回答数に対するA，B評価の割合(%))

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	87	85	87	94
社会を知る	87	90	89	90
自然を知る	83	85	86	83
健やかに生きる	88	88	87	92
こころ豊かに生きる	97	91	94	91
英語	ー	ー	97	97
ドイツ語	86	88	85	80
フランス語	88	91	88	96
中国語	92	93	94	94
朝鮮語	97	91	96	96
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	74	81	74	78
スポーツ	97	96	96	97
専攻別基礎科目	75	81	80	80
日本語科目	100	97	100	100
平均	84	87	88	89

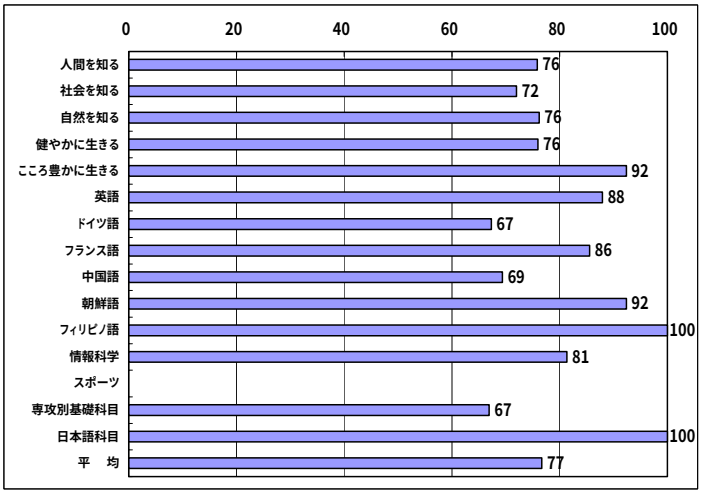


「視聴覚教材」は、学生の理解を促すため、教授手法としてビデオ・コンピュータ機材を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では77%の肯定的評価を得た。科目特性により視聴覚教材の使用の意味に差異があるので、必ずしもこの数値が授業の質を表現するものとはならないが、学生の理解を促す有効な教材であることには間違いないので、積極的に使用すべきであろう。

表8　設問⑧2-4　視聴覚教材

(全回答数に対するA，B評価の割合(%))

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	76	70	79	76
社会を知る	71	69	68	72
自然を知る	76	83	84	76
健やかに生きる	52	74	64	76
こころ豊かに生きる	90	86	89	92
英語	ー	ー	86	88
ドイツ語	63	69	61	67
フランス語	70	77	71	86
中国語	66	72	68	69
朝鮮語	81	80	94	92
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	79	89	84	81
スポーツ				
専攻別基礎科目	60	66	64	67
日本語科目	98	97	97	100
平均	71	74	76	77

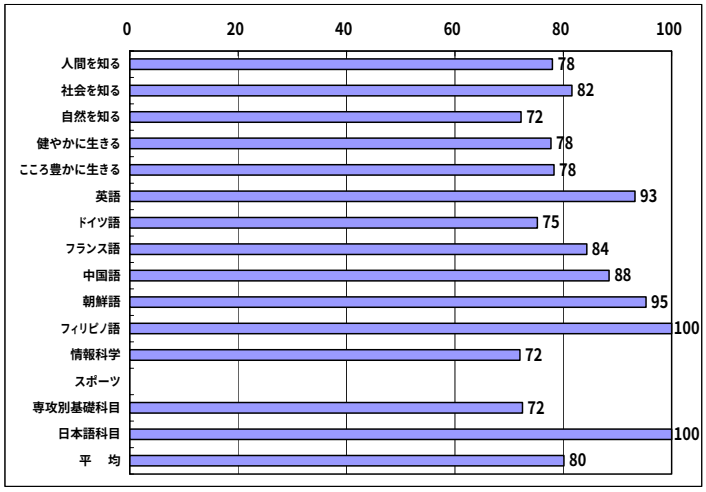


「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が80%であった。学生から自由記入欄で指摘される問題の中に、シラバスに教科書を指定した場合は必ず授業中で使用し、その価値を説明して欲しいという要望が数多く寄せられる。このコメントを真摯に受け止め、シラバスに記載する内容に対して今後もきちんとした説明が求められることを認識すべきであろう。

表9　設問⑨2-5　教科書･プリント

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	78	76	83	78
社会を知る	79	84	81	82
自然を知る	65	76	74	72
健やかに生きる	58	74	59	78
こころ豊かに生きる	84	84	82	78
英語	ー	ー	91	93
ドイツ語	76	78	68	75
フランス語	78	79	77	84
中国語	88	89	89	88
朝鮮語	94	89	96	95
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	66	83	70	72
スポーツ				
専攻別基礎科目	69	74	72	72
日本語科目	100	97	100	100
平均	74	79	79	80



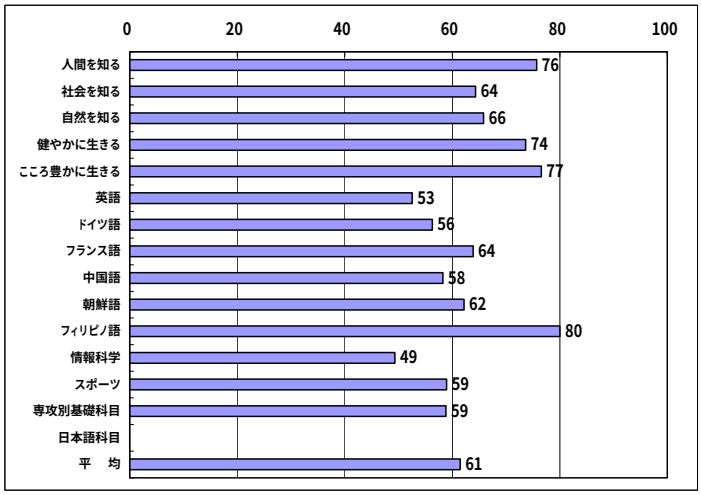
３）「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」は、全科目平均で61%の肯定的評価であった。ということは、4割の学生はシラバスをほとんど読まずに受講していることとなる。シラバスを読むことで、学習内容を大まかにつかむことは学習効果を高めることに繋がることをガイダンス等で周知したい。

表10　設問⑩3-1　シラバス

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	69	71	70	76
社会を知る	71	74	71	64
自然を知る	63	72	65	66
健やかに生きる	68	78	70	74
こころ豊かに生きる	81	79	78	77
英語	ー	ー	56	53
ドイツ語	60	66	58	56
フランス語	54	72	68	64
中国語	68	68	64	58
朝鮮語	66	64	70	62
フィリピノ語	67	75	80	80
情報科学	53	68	48	49
スポーツ	67	70	70	59
専攻別基礎科目	55	63	57	59
日本語科目				
平均	64	70	63	61

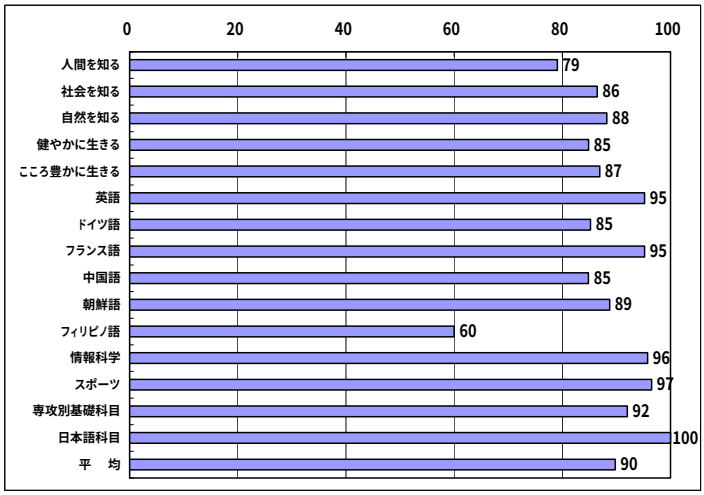


「出席状況」は全科目平均で90%であり、一部を除いてほぼ90%の肯定的評価を得ている。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。評価が低い「フィリピノ語」については見直しが必要であろう。

表11　設問⑪3-2　出席状況

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	87	81	89	79
社会を知る	87	85	88	86
自然を知る	89	87	88	88
健やかに生きる	88	87	88	85
こころ豊かに生きる	89	84	90	87
英語	ー	ー	95	95
ドイツ語	94	88	91	85
フランス語	91	93	92	95
中国語	94	91	93	85
朝鮮語	93	84	92	89
フィリピノ語	67	75	80	60
情報科学	95	95	95	96
スポーツ	97	95	96	97
専攻別基礎科目	93	93	92	92
日本語科目	94	87	100	100
平均	91	89	92	90

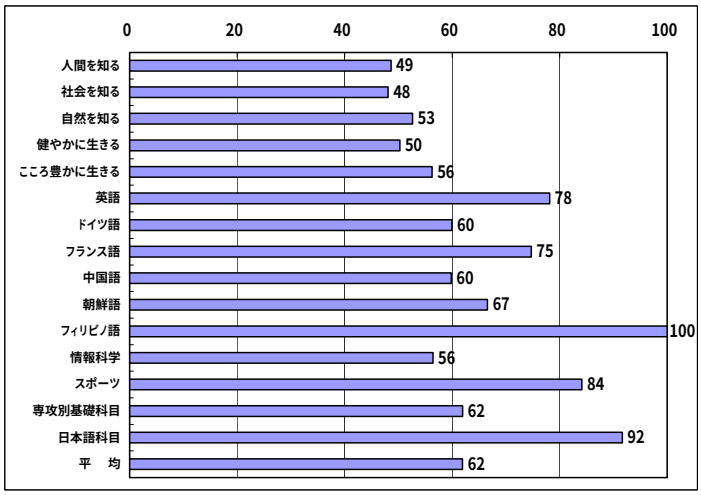


「学習態度」については、全科目の肯定的評価は62%であった。特に「人間を知る」、「社会を知る」、「自然を知る」、「健やかに生きる」、「こころ豊かに生きる」の主題科目群、「情報科学」が40%～50%台になっており、積極的に授業に臨んでいるとは言い難い状況にある。

表12　設問⑫3-3　学習態度

（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

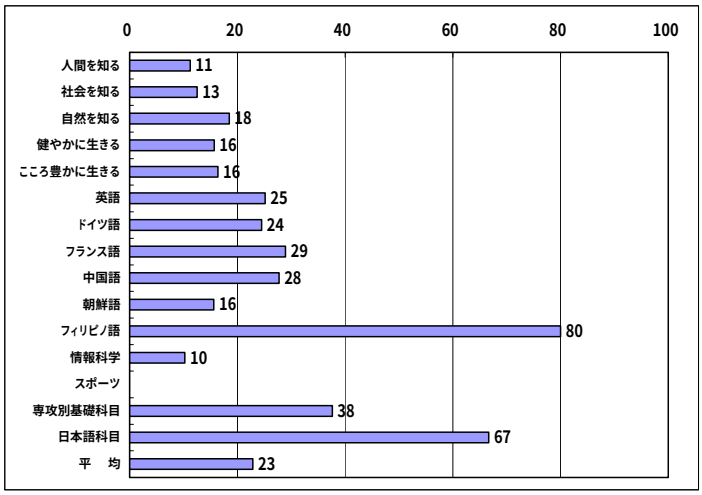
	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	41	41	45	49
社会を知る	43	48	47	48
自然を知る	42	51	50	53
健やかに生きる	60	54	44	50
こころ豊かに生きる	60	46	50	56
英語	ー	ー	76	78
ドイツ語	58	62	65	60
フランス語	66	73	62	75
中国語	62	62	63	60
朝鮮語	66	63	60	67
フィリピノ語	67	100	100	100
情報科学	70	75	60	56
スポーツ	81	83	82	84
専攻別基礎科目	59	64	61	62
日本語科目	96	97	94	92
平均	55	59	60	62



「授業時間外学習」についてだが、授業科目毎に１時間以上行う学生の比率は23%であった。現行の単位制度では、１単位は①教員が教室等で授業を行う時間及び②学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間、の合計で標準４５時間の学修を要する教育内容を持って構成されている。そのため、自宅学習時間の取り組みが低いことは問題である。そんな中で、60%以上の学生が1時間以上の授業時間外学習をしている「フィリピノ語」と「日本語」について、どのような課題を出しているのか深い調査の実施が必要である。

表13 設問⑬3-4 授業時間外学習
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	10	7	14	11
社会を知る	12	9	16	13
自然を知る	8	14	19	18
健やかに生きる	12	12	8	16
こころ豊かに生きる	16	13	14	16
英語	ー	ー	26	25
ドイツ語	19	22	23	24
フランス語	34	30	32	29
中国語	25	22	29	28
朝鮮語	16	15	21	16
フィリピノ語	50	75	60	80
情報科学	22	27	15	10
スポーツ				
専攻別基礎科目	27	32	35	38
日本語科目	48	58	61	67
平均	18	19	23	23

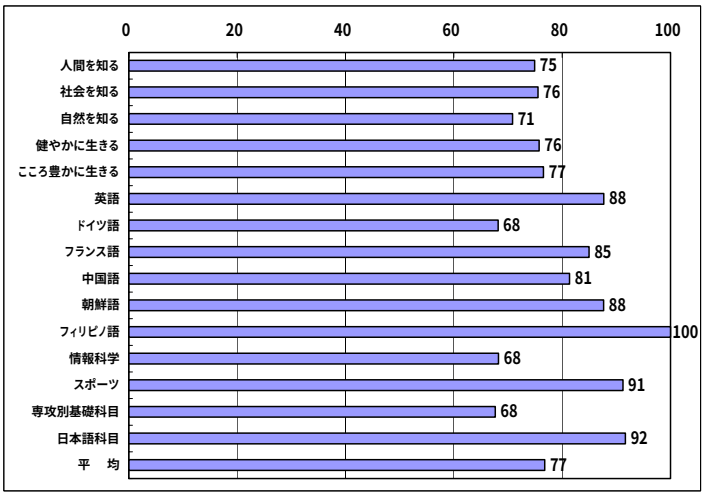


４）「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」についてだが、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、科目全体で77%の学生から肯定的評価を得た。数値は年々改善されており、教員の努力が感じられる。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生から問題点を引き出し、教員がどのように問題点を認識し、改善に向けて対処するかということを、学生に伝えることが必要であろう。学生からすれば当該授業との出会いは一期一会の機会であることからすると、改善への意欲が彼ら・彼女らに伝わるよう工夫することは、教員としての責務であろう。

表14 設問⑭4-1 改善度
（全回答数に対するA，B評価の割合（%））

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	66	64	66	75
社会を知る	77	73	73	76
自然を知る	60	73	69	71
健やかに生きる	64	69	59	76
こころ豊かに生きる	81	72	76	77
英語	ー	ー	86	88
ドイツ語	63	73	65	68
フランス語	67	80	73	85
中国語	72	80	73	81
朝鮮語	87	80	89	88
フィリピノ語	83	100	100	100
情報科学	64	76	60	68
スポーツ	85	87	86	91
専攻別基礎科目	61	69	67	68
日本語科目	90	94	100	92
平均	68	73	73	77



「目的・目標達成度」は授業に対する目的・目標の達成度を質問しており、全科目平均では84%、科目間のばらつきがあるものの概ね全ての科目で70%を超える肯定的評価となった。「スポーツ」「フィリピノ語」「日本語科目」は100%に近い高い評価となっている。

ただし、授業全体としての「満足度」は「自然を知る」「ドイツ語」「情報科学」「専攻別基礎科目」で低い肯定的評価であり、さらなる改善が求められよう。共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されてはいけないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。目的・目標達成度や満足度があまり高くない科目については、カリキュラムの面からも問題がないか、絶え間なく検証する必要がある。

表15　設問⑮4-2　目的･目標達成度
(全回答数に対するA，B評価の割合(%))

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	74	77	78	80
社会を知る	77	81	81	81
自然を知る	76	83	78	77
健やかに生きる	81	84	82	90
こころ豊かに生きる	92	82	88	89
英語	ー	ー	90	92
ドイツ語	80	80	76	79
フランス語	82	87	78	92
中国語	85	88	87	87
朝鮮語	90	84	93	88
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	78	87	81	81
スポーツ	96	95	94	97
専攻別基礎科目	71	79	75	76
日本語科目	98	97	100	100
平均	78	83	82	84

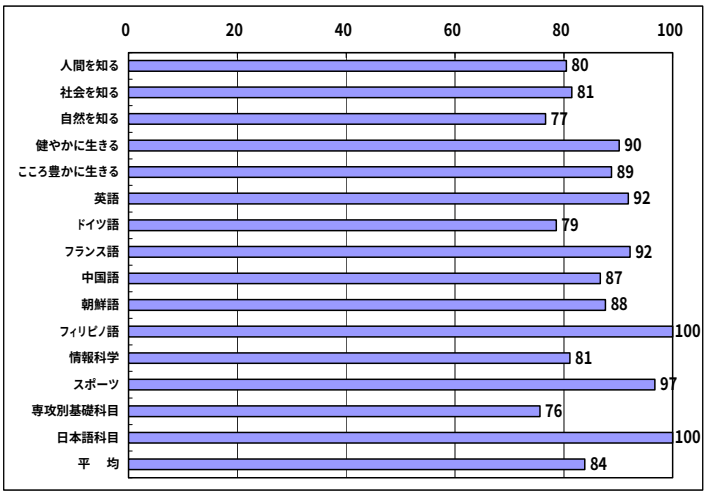
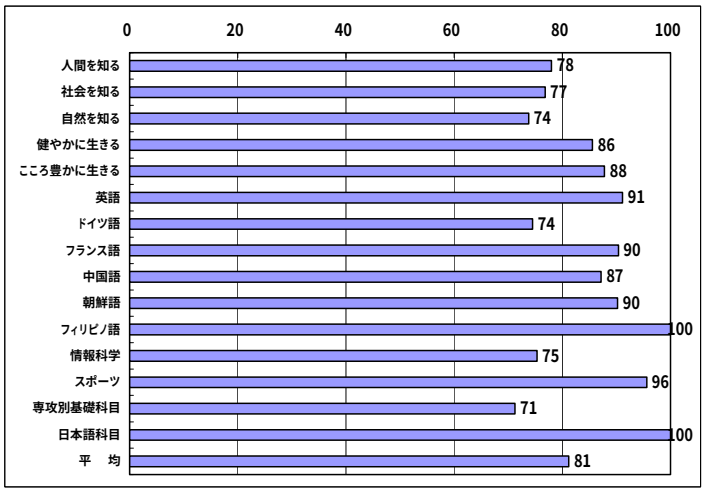


表16　設問⑯4-3　満足度
(全回答数に対するA，B評価の割合(%))

	平成16年度		平成17年度	
	前	後	前	後
人間を知る	71	72	74	78
社会を知る	74	79	78	77
自然を知る	72	79	75	74
健やかに生きる	75	81	84	86
こころ豊かに生きる	90	75	88	88
英語	ー	ー	90	91
ドイツ語	73	79	74	74
フランス語	80	86	78	90
中国語	84	85	86	87
朝鮮語	92	83	92	90
フィリピノ語	100	100	100	100
情報科学	75	82	75	75
スポーツ	95	93	93	96
専攻別基礎科目	65	72	70	71
日本語科目	100	97	100	100
平均	75	79	80	81